

# デイサービス利用者における セルフエフィカシーと自律神経機能および運動機能の 関係性について

杏林大学保健学部理学療法学科 相原圭太

## 目的

本研究は、要支援・要介護者を対象とした在宅運動の実施に対するセルフエフィカシー(SE)尺度を用いたSEレベルの評価および自律神経機能評価(HRV計測)、運動機能評価、BMIや体脂肪率といった身体状況などとの関連を明らかにし、健康増進に関する適切な支援を検討することを目的とする。

## 対象

対象者は三鷹市・武蔵野市在住デイサービス利用者(Let's 倶楽部 三鷹)とする。要支援以上・要介護度3未満、主たる移動手段が歩行であること(補助具の有無は問わない)、自律神経系に影響を及ぼす薬剤を使用していないこと、著明な不整脈がないこと、調査にあたり言語指示が理解可能であり、コミュニケーション能力に支障をきたさない者とする。

## 方法

半構造化面接、運動機能評価、自律神経機能評価(HRV測定)、体組成測定を実施する。

半構造化面接：

調査項目は、(1)基本属性(性別, 介護度, 主疾患: 整形疾患, 中枢疾患)、(2)在宅運動実施状況、(3)運動効果の身体的実感の有無、(4)在宅運動セルフ・エフィカシー尺度(Home-Exercise Barrier Self-Efficacy Scale;以下, HEBSについて聴取する。

運動機能評価：

握力、開眼片脚立位、10m最大歩行速度、Timed Up&Goを実施する。

生理機能評価：

安静座位にて十分安静が取れた時点から安静時のHRVデータを記録する。心電図データは、ポータブル心拍変動測定器チェック・マイハート(Daily Care BioMedical 社製)を使用し、心拍数や活動量はApple watch(Apple社製)を用いて測定する。

体組成測定：

体組成計(インナースキャンデュアルRD-800 タニタ社製)を使用し、BMIや体脂肪率などを測定する。

分析方法：

SPSS(Ver. 26 IBM社)を使用し、相関分析や多変量解析を用い分析をする。

## 結果

COVID-19の影響により、研究協力施設でのデータ収集が困難であったため中止となった。